

双葉中学校 学校関係者評価書

令和5年2月 6日(月)

双葉中学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：1月27日(金) 17:30

会 場：双葉中学校会議室

参加者：(学校関係者評価委員) 増坪總明 柳本博美 宮坂雄次郎 長谷部集 飯室智陽
(学校側) 小林 大 市川英雄 荻野秀紀

I 学校側から提案された内容

- ・ 自己評価・生徒アンケート・保護者アンケート結果
- ・ 比較集計結果表(昨年度と今回の生徒・保護者アンケート, 教員自己評価の比較)
- ・ 自己評価書

II 協議された主な内容

- ・ 双葉中学校の現状
- ・ 双葉中学校の課題と改善策

<学校関係者評価書>

I 全体評価

○A(そう思う) B(ややそう思う)を合わせると, 90%を超える肯定的評価の項目が多くなっている。感染症予防の教育活動を並行していく職員集団のまとまりを感じる項目が多い。

・ 教師自己評価 I (学校教育目標・学校経営)

5項目中すべての項目で90%以上のA B評価である。学校の教育活動計画に基づき, 実態に即した教育実践を行っている教師が増えてきた。A評価が全体的に5項目中, 4項目で数値が上昇している。協力体制では, 昨年に比べて, 高い数値の上昇が見られている。

・ 教師自己評価 II (学校運営)

8項目中5項目で90%以上のA B評価である。職務について職員一人ひとりが責任感をもって協働体制をとりながら, 取り組んでいる。校務支援や働き方改革については数値の改善が見られた。

・ 教師自己評価 III (学習指導)

7項目中5項目で90%以上のA B評価である。ICTについては校内研などでも, 取り組んだこともあり, 数値の上昇が見られた。また, 新学習指導要領にある協働的な学びの数値も上昇した。

・ 教師自己評価 IV (生徒指導)

6項目すべてで90%以上のA B評価である。A評価の数値も6項目すべてで上昇している。不登校や支援の必要な生徒に対して組織的な取り組みの項目の数値が改善された。項目7以外は95%以上のA B評価で, 肯定的評価であった。

・ 教師自己評価 V (地域との連携)

6項目中4項目で90%以上のA B評価である。コロナ禍の学校運営で, 学校に招く人材にも制限があり, 地域人材等の活用について昨年度よりも低下している。

・ 教師自己評価 VI (学校の特色)

4項目中すべての項目で90%以上のA B評価である。生徒の活動(読書, あいさつ, 整理整頓)は, ほぼ例年通りにできており, 伝統を引き継いでいる。

・ 教師自己評価 VII (創甲斐教育)

3項目すべてで, A B評価で90%以上であった。昨年と比べても, すべての項目で数値の上昇が見られた。特に「主体的に考え, 行動する指導」については上昇した。

・生徒アンケートからは、全体としてA B評価が例年通り多く、概ね肯定的な回答である。ただ「学校が楽しいですか」「学校の授業が楽しいですか」の項目の数値が年々低下している。コロナ禍で学校行事や部活動の制限が影響していると思われるが、学校行事の見直しや授業改善に取り組むとともに、コロナ禍での教育活動に力を尽くしていきたい。「学校のきまりや約束事が守れていますか」の項目が高い数値であり、生徒が学校生活をしっかり送っていることがうかがえる。

・保護者アンケートからは、多くの項目でA B評価に多く、概ね肯定的な回答である。授業参観や学校開放日、P T A活動の数値が低下している。コロナ禍3年目となり、全校生徒がコロナ後の入学生である。保護者からも学校の教育活動の様子が見えづらくなっていると思われる。

II 特 徴

- ・職員のまとまりやICTの活用について、昨年度より深まった様子が見られる。さらに全職員で一丸となって、「チーム双葉中」で教育活動に取り組んでいきたい。
- ・生徒は、きまりを守ったり、学校生活をしっかりおくれたりしていることがうかがえる。
- ・コロナ禍3年目になり、学校ホームページやメールなどで学校から地域への情報発信が進んでいる様子がみられる。来年度も引き続き、力を入れていきたい。

III 今後の課題として意識していくこと

- ・学校の教育活動自体の数値は安定している。教職員が情報を共有して、協働体制の中で諸問題を迅速適切に解決していくための手段を、校務支援システム等を活用しながら確立していきたい。
- ・コロナ禍の3年目で、本年度も様々な教育活動に影響が出た1年であった。ここ3年間停滞している保護者や地域社会との協働が一層大切となってくる。地域人材や資源の活用について、地域や生徒の実態に基づいた教育課程を編成して、知徳体のバランスのとれた生徒を育成したい。
- ・来年度も引き続いて、ICTを活用した授業について研修を積み、教員の資質・能力を育成し、学校全体でICT教育に取り組んでいきたい。また、双方向でやり取りができる本校のメールシステムを活用して、保護者の声に耳を傾けていきたい。

学校評議員より

- ・全体的に、肯定的な数値が多く、先生方の努力の結果ではないかと考えることができる。
- ・職員集団のまとまりに、高い数値が見られ、職員集団がそれぞれの持ち場で意識が上がっている。
- ・不登校の生徒の支援で一人一台タブレットが非常に効果的である。リモートの授業参加が生徒の教室復帰の足がかりになればよい。
- ・タブレットの持ち帰りが進み、タブレットの有効利用ができています。その反面、タブレットを使うことで、生徒の話し合いや、協働学習の妨げになっていないか危惧される。
- ・コロナ禍で、感染状況や急な予定の変更など保護者は学校からの情報を的確かつ迅速に得る手段として、ホームページや双葉中学校のメールシステムによる情報の発信におおいに感謝しているようだ。
- ・自己評価結果については学年ごとのデータを出して、各学年の課題を明確にして、取り組むとよい

※特記事項

特になし

記載責任者（双葉中学校 学校関係者評価委員） 氏名：柳本 博美 印

